名工・広瀬保太郎翁

休石博美
（会員・直川村上直見）

広瀬保太郎翁之略歴

翁　資性温厚篤実殊ニ能ク　克己心ニ富ミ且ツ　不言実行ノ人ナリキ。

文政九年（一八二六）五月五日

本郡下堅田村柏江港　井上佐吉氏ノ家ニ生ル。幼名ヲ保太郎ト称ス。

兄弟六人　長兄増蔵　次ヲハル　槌蔵、其ノ次ハ即チ翁ニシテ　弟ヲ徳蔵、妹ヲキチト言フ。

幼時　名匠・保右衛門ノ徒弟トナリ、刻苦勉励　幾許ナラズ十六・七歳ニシテ棟梁トナリ、二十二歳ノ時広瀬久左衛門道治ノ養子トナル（直川村赤木へ）。

家ハ、素旧庄屋・安藤家ノ分家ナリ（大庄屋）。

養母ヲヤマト言ヒ、妻ヲキクト言フ。

後チ、四男一女ヲ挙グ。

長男ヲ武吉ト言ヒ、次ハ勝蔵、佐吉、忠蔵、ハルト言フ。

翁　能ク養父母ニ事ヘ、農ノ外、大工職ヲ副業トシ精励以テ意ヲ家政ト子女ノ訓育ニ致シ、終始一貫　家運ノ隆昌ヲ計ル。

後、家督ヲ相続スルト共ニ、久左衛門ト襲名ス。

就中、技術徳望近郷ノ知ル所トナリ。タマタマ精工ヲ要スル建築、特ニシテ殆ンド翁ガ技ニ成ラザルハナキガ如シ。

今尚残レル建物ニテ、重ナルハ

本村仁田原ノ大歳神社

林本家（仁田原）

横川・井取神社

直見村・肘切神社（上直見竹ノ下）

大原ノ富尾宮（宇目町）

等アリ。

翁　又先天的、健康体ニシテ、亦能ク精励者ナリ。

晨ニ霜ヲ踏ミ、夕ニ星ヲ戴キ、農ニ将又職ニ、尚ホ寸暇アレバ、夜業ヲ為スト言フ。

八十四・五歳迄ハ壮者ヲシノグノ慨アリシヲ以テ翁ガ一世ヲ窺フニ足ル。

因ニ　翁ガ入家ノ当時、余裕アル家産ナカリシモ、翁コレ一世ノ奮闘ニ依リテ、目出度　今ノ広瀬家アルヲ致ス。誠ニ栄誉アル中興ノ祖トシ、其ノ子孫タル者永久其ノ徳ヲ追彰セズシテ、可ナランヤ。

嗚呼　惜哉　此ノ栄アル翁モ、大正三年旧十月十一日哀レ他界ノ人トナル。

人ハ一代　名ハ末代ト　宜ナル哉。

享年八十九　法名　的法軒宗中福寿居士。

干時　大正十二年二月十一日

当広瀬家主人金十郎氏、亡養祖父ノ美徳追慕ノ念禁シ難ク、余ニ托スルニ、翁ノ御肖像ト伝記トヲ以テス余　文才ナシ、唯聞クママ、茲ニコレ録ス。

真　田　八　洲　写

右の文章は、尊祖・広瀬保太郎翁像（直川村赤木・広瀬博信氏所有）が描かれている書軸の上段に、記載されています。見事な書体です。

備　考

神主　　真田家々系一覧

先　祖　真田与介（寛永八未年九月　上岡村死亡）

二　代　左源太（天和年間　上岡村八戸居住）

三　代　長太夫（元文年間　上直見間庭へ移住）

四　代　豊前（天明年間）

五　代　相模（安永七戊年四月二十五日肘切神社再建）

六　代　筑前（文政二卯年十二月）

七　代　隠岐（安政四巳年十一月死亡）

八　代　是基（明治三十四年三月三日死亡）

九　代　保五郎（昭和十二年九月二十二日死亡）

十　代　足穂（昭和三十九年八月八日死亡）

十一代　公生

十二代　昌

真田八洲は、九代保五郎の雅名でしょう。

なお、肘切神社は、文治二年（一一八六）頃の勧請と伝えられ、壇ノ浦で敗れた平家の落人、平光世・光国兄弟が落ち延びて、一時身をひそめたと言われる由緒ある神社です。

国道十号線沿いにある神社の鳥居をくぐり、六十一段の石段を登りつめた左右には、宝暦十三未年正月吉日向

船場　川又村中と銘記された十字架石灯籠があります。

また、この境内には、一の枝まで六メートル、胸高二メートルもある御神木・一つ葉もそびえています。村天然記念物に指定されています。「一つ葉」は、村内唯一の御神木だそうです。

広瀬家略系

久佐衛門―保太郎（養子・久左衛門）―武吉―金十郎―康夫―博信―正也

広瀬保太郎翁は、佐伯地方の名工の一人でした。

この資料は、直川村赤木の安藤金喜さんのお力添えによるところが甚大でした。厚くお礼を申し上げます。

旧佐伯十二社の一つ、城八幡社本殿（佐伯市下城）の本殿は、天保弐年（一八三一）柏江の宮大工野々下安兵衛が建造されましたが、佐伯地方の神社建築の名作といわれています。

広瀬保太郎翁（旧名・井上佐吉）は、柏江出身でしたので、棟梁野々下安兵衛の指導を受けたものと考えられます。

大歳神社・井取神社・肘切神社・富尾宮など、たくさんの神社建築を手がけたのも、うなずけるものがあります。

また、野々下安兵衛は、佐伯市柏江の江国寺（禅宗）山門を、文政三年（一八二〇）に建築されています。

佐伯・南海部郡地方には、吉田又四郎・清田倉蔵・清田吉五郎・清田八五郎・河内又五郎・河内万五郎・高木滝蔵・佐脇保幸・佐脇滝蔵・田村徳十郎・山崎平内・今山勘造・今山好秋・今山猛・荒牧伊三夫・武藤照吉・曽宮衛吉など、多くの名工が生まれ、優れた作品を残していますが、広瀬保太郎翁もその中の一人でした。